岡山畜産便り 1964.01

養鶏農協だより

―岡山県養鶏農業協同組合―

あけましておめでとうございます。新年号より“養鶏農協だより”を掲載させて頂くことになりました。ごべんたつ、ご協力をお願い申し上げます。

飼　料

昨年秋、一せいに配合飼料が値上げされました。これは、配合主原料であるトウモロコシをはじめ輸入単味飼料が軒並みに価格が高くなったことが直接の原因であり、国内産麦類の入手難、輸入飼料高騰に伴う国内産飼料への高価格波及がこれに拍車をかけたようです。現在では落ちつきをとりもどし、高騰ながらしばらくはこれ以上は上がらないでしょう。

輸入飼料の価格が上がったのは、主として船運賃値上げの影響です。ソ連の小麦等大量買付けがもたらしたものです。それに加えてトウモロコシの船積みが遅れ、在庫が底をつきかけましたので、やむを得ず高値で買いあさったり、思惑買いをするものまで現われて大混乱となったのでした。しかしその後の入荷は順調ですから混乱は間もなくおさまり、現在では逆に、入荷が集中する２月には金融投げがあるのではないかと観察する向きまであります。といって船運賃が下がったわけではありませんから、現在の値段が当分続くものとみなければならないでしょう。

養鶏経営規模の拡大に伴って、配合飼料の合理的な荷姿が真剣に考えられ、一部では既に実施にふみ切っています。配合飼料の価格中に占める包装費、運賃等の割合は無視できません。養鶏家は、自分のためでもありますから、これに対する理解と研究を行ないたいものです。

初生雛

今春の初生雛は、空前といわれるほどの売行きになるのではないかと推察されていますが、一流孵化場の雛は、既に昨年秋には晩春雛まで生産予定羽数が売約済になっています。数年来養鶏採算が順調であったことと、今年がオリンピック年であることが刺激になっているのでしょうか。また、養鶏経営規模が大きくなれば年間更新計画を樹てることが必要になりますから、採卵用雛の年間購入契約をする養鶏場が殖え、しかもそれらはまとまった羽数で一流孵化場に需要が集中する傾向が年々増しています。この傾向も、一流孵化場生産雛の入手難をますます著しくする原因になります。

ブロイラー用雛の需要は年々着実に増していますが、抜き雄の需要はむしろ減退気味で、ブロイラー専用雛に需要が集中するようになりました。ブロイラー育成は、採卵養鶏以上に計画生産を必要としますから、雛も年間契約で入手を確保しなければなりません。特に例年６～12 月は雛需要が増す時期ですが、雛の生産は逆に減少気味ですから、ブロイラーの計画育成をする人は、よほど早くから雛を契約しなければなりません。

衛　生

鶏病の予防、治療に抗生物質やサルファ剤がよく使用され、特に飼料添加剤として種々な薬剤が広く利用されています。そして、いずれもかなりな効果を挙げていることは事実ですが、それに伴って細菌やウィルスに、薬剤に対する抵抗性を持つものが多くなったことが問題になっています。

人間社会でも、耐性菌や耐性ウィルスは大きな問題で、前には抗生物質の投与で簡単になおった病気が、今ではなかなか治療が困難になったという例があります。鶏病の場合も同様で、カビ性の病気（肺炎、腸炎等）がおそれられているようです。また鶏は、ビタミンＫを飼料中から摂取しなければならな

い（必須ビタミン）動物ですが、抗生物質やサルファ剤の投与（特に連用）でそのビタミンＫの不足を招き、そのために出血性の病気をおこすようなことがあります。

コクシジウムの治療にはサルファ剤がよく使われますが、その薬効でコクジウムがなおった後に出血性の病気でたおれ、それをサルファ剤がきかなくてコクシジウムでたおれたのだと誤解することがあります。この病気は鶏種によって罹病率が異なりますが、ブロイラー用鶏種に多い傾向がありますから、ブロイラー養鶏家は特に注意が必要です。この鶏病の原因はまだよく判っていませんが、ビタミンＫの不足でも耐性菌のためでもない別の原因による病気だといわれています。Haemorrhagi Disease（出血性疾患）と称されているのがそれです。

耐性菌の問題は一昨年の養鶏振興審議会で、委員であるこの組合の山上組合長が提議して採り上げられ、昨年から継続事業として研究されています。その研究には数箇所の民間研究所も参加していますが、この組合の病理衛生研究所もそれに参加協力しています。